

【23】希有な出来事が連続することがある

頻度の少ない珍しい現象が連続するというのは、自然界にもよく見られます。そもそも偶然のランダムな事象が 2 回、3 回と連続して生起するのは確率論でも希ですが十分ありうることです。

昭和 41 年 7 月（1966）に、新潟県北部の新発田市の東部を流れる 2 級河川「加治川」が、明治 30 年（1897）以来、70 年ぶりの大雨で破堤氾濫し、大水害になりました。突貫工事が行われ大規模な災害復旧事業が翌年完成し、官民挙げて喜んでいた時に、昭和 42 年（1967）8 月の事です。前年をはるかに上まわる、それこそ有史以来という大洪水が発生しました。被災した堤防の災害復旧工事による仮締め切り堤防も、蛇行していた河道を直線化するために、用地買収して設置した新堤防も全てが破壊されてしまいました。

その後、再度の災害復旧事業も完成し、また上流に大きな治水ダムも建設され、以来、今日に到るまで 50 年余り顕著な水害は発生していません。明治 30 年から今日までの 120 年間に 2 回の歴史的な大水害が 2 年続いて発生したことになります。

希な事がたて続けに生じる可能性があるということを、あまり心配しすぎるのも健康的ではありませんが、忘れないようにしたいものです。

有名なマーフィーの法則でも、

“If it can go, then it will.”

（生じ得ることは、いつか起るだろう。）と簡潔に言っています。